

IV-53

大都市近郊農山村地域における地域整備方策に関する一考察

立命館大学理工学部 正 員 春名 攻
 大都工業株式会社 正 員 ○曾我 享彦
 立命館大学大学院 学生員 川端 信之
 立命館大学大学院 学生員 村澤 範一

1. はじめに

近年、大都市圏の外縁的拡大や農山村地域の活性化への要求強まってきている。またこれらの要求と、広域交通体系の整備促進と相まって、農山村地域においては、個性的で魅力ある都市的開発や産業立地などの様々な地域整備が望まれている。このような地域で効果的な地域整備を実施するため、本論文では、まず、効率的・効果的と思われる農山村地域の地域整備方策を模索していく上で必要と考える。現状の居住環境に対する意識の分析を試みるとともに、農山村地域の整備に関する諸問題を明確にこれらを解決するための地域整備の方策や手法についての考察を行った。

2. 対象地域及びアンケート調査の概要

(1) 対象地域の概要

対象地域としては、京都府中部の丹波山地に位置する京都府船井郡北部の3町（瑞穂町、丹波町、日吉町）をとりあげた。この地域は、大阪・神戸より直線距離で約53km、京都より約40kmの地点に位置している。現状の交通機関では、大阪からは阪神高速道路、国道173号を経由して74km、約95分、京都からは国道9号、京都縦貫道路により

50km、約60分、鉄道では、JR山陰本線により京都～丹波町（下山駅）まで約80分の位置にある。

以上のような地域の特徴をまとめたものが表-1である。

(2) アンケート調査の概要

地域に対する意識は、地域条件や個人の属性等によって異なると考えられる。それらの属性のひとつとして転出や転入などの移動経歴も、地域に対する意識に大きな

影響を与えるものと考えられる。そこで、本研究では対象地域に関わる人々を移動経歴という点から、図-1のように定住者（出生以来地域内に居住している人）、転入者及び転出者に類型化し、3種類のアンケート調査を実施した。

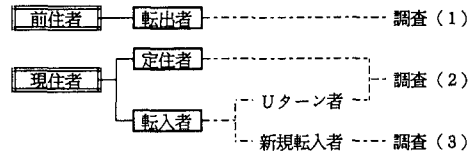


図-1 住民の移動経歴による類型化

本研究では、居住環境が「住宅関連環境」「交通関連環境」「衛生関連環境」「医療関連環境」「教育関連環境」「消費関連環境」「余暇関連環境」「情報関連環境」の8つの項目から構成されているものと仮定し、居住環境に関する満足度を5段階で評価したものをを用いて検討を進めることとした。

(3) 移動経歴ごとの居住環境評価

移動経歴の異なる評価主体の居住環境の評価構造を明らかにするため、各評価項目に対する回答の平均値を用いて評価状況を示したものが図-2である。この図をみると、若干ではあるが新規転入者の評価が転出者よりも上回り、さらに新規転入者より定住

表-1 対象地域の特徴

区 分	瑞 穂 町	丹 波 町	日 吉 町
地形条件	総面積110.02km ² うち林野83.1% 一部を除き全体として緩やかな地形	74.28km ² うち林野72.0% 一部を除き全体として緩やかな地形	123.82km ² うち林野89.8% 平地は胡麻郷地区にわずかにあるだけ
人口動態 (S60年国調→H1年)	5,716→5,541人 前年比0～2%減で推移 20%を超える高齢者人口比率	8,499→8,587人 50～54前年2～4%増 近年概ね横ばい	6,310→5,747人 前年比0～5%減で推移 20%を超える高齢者人口比率
通勤・通学 人口 人口流動	過疎化とあいまって就業・通学人口が減少。丹波町等への通勤・通学により流出超過の比率も大きい。	工場等の立地が進み就業人口が増加。自町内就業・通勤人口率が高く、流出超過の比率も小さく、さらに減少傾向にある。	京都市等への通勤・通学により自町内就業・通勤人口率は低い。
産業構造	第1次産業就業率が相対的に高い。	工場立地の集積等から第2次産業就業率が相対的に高い。	第1次産業就業率が相対的に高い。

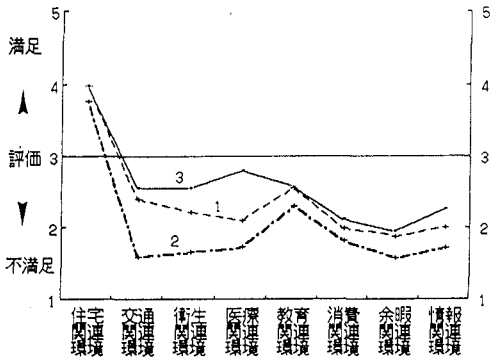


図-2 移動経歴による居住環境評価

者が上回る結果となっている。またそれぞれのグラフの形状が同じで、それぞれが平行移動しているような状況を示していることから、3主体の地域評価に対する考え方は基本的にはほぼ同じであるということがいえる。

表-2 数量化Ⅱ類による住み良さ評価の要因分析

評価項目		k:カジリ値 r:偏相関係数(順位)					
		転出者		定住者		新規転入者	
評価項目	カジリ	k	r	k	r	k	r
住宅関連環境	満足していない	-0.054	0.0801	-0.870	0.2062	-0.787	0.1884
	満足している	0.037	(6)	0.245	(1)	0.254	(2)
交通関連環境	満足していない	-0.205	0.5470	-0.164	0.0568	-0.386	0.1227
	満足している	0.998	(1)	0.110	(6)	0.238	(4)
衛生関連環境	満足していない	-0.021	0.0527	-0.151	0.0562	-0.124	0.0529
	満足している	-0.101	(7)	0.112	(7)	0.161	(6)
医療関連環境	満足していない	-0.048	0.1443	-0.484	0.1328	-0.265	0.1388
	満足している	-0.235	(4)	0.231	(3)	0.473	(3)
教育関連環境	満足していない	-0.006	0.0117	-0.245	0.1402	-0.017	0.0055
	満足している	0.011	(8)	0.315	(2)	-0.011	(8)
消費関連環境	満足していない	-0.104	0.2918	-0.163	0.0940	-0.389	0.2346
	満足している	0.593	(3)	0.307	(4)	0.872	(1)
余暇関連環境	満足していない	-0.225	0.5421	-0.041	0.0250	-0.038	0.0241
	満足している	1.287	(2)	0.096	(8)	0.101	(7)
情報関連環境	満足していない	-0.042	0.1193	-0.132	0.0605	-0.131	0.0661
	満足している	0.177	(5)	0.168	(5)	-0.241	(5)
相 関 比		3.5644		0.2176		0.2133	

表-3 居住環境の満足率とウェイト

評価項目	評価主体	転出者	定住者	新規転入
住宅関連環境	満足率%	59.6%	78.0%	75.6%
	ウェイト	0.0448	0.2262	0.2674
交通関連環境	満足率%	17.0%	59.8%	61.8%
	ウェイト	0.3057	0.1473	0.0736
衛生関連環境	満足率%	17.0%	57.5%	43.5%
	ウェイト	0.0295	0.0635	0.0728
医療関連環境	満足率%	17.0%	67.7%	35.9%
	ウェイト	0.0807	0.1664	0.1719
教育関連環境	満足率%	36.2%	57.5%	61.1%
	ウェイト	0.0065	0.0066	0.1817
消費関連環境	満足率%	14.9%	34.6%	30.5%
	ウェイト	0.1631	0.2817	0.1218
余暇関連環境	満足率%	14.9%	29.9%	27.5%
	ウェイト	0.3030	0.0289	0.0324
情報関連環境	満足率%	19.1%	44.1%	35.1%
	ウェイト	0.0667	0.0794	0.0784

3. 居住環境評価にもとづく地域整備課題分析

ここでは住み良さに影響を与える要素を明確にするため、農山村地域の住み良さを外的基準にとり、農山村地域の居住環境に対する満足度を説明変数として、数量化Ⅱ類の分析を行った。この分析の結果を表-2に示した。また各評価主体の偏相関係数の総和が1.0となるように基準化して、ウェイトとして求めたものと、各評価項目

の満足率を取りまとめたものが、表-3である。ここで、図中で強調している項目は、ウェイトが高いのにも関わらず満足率が低い項目である。つまり、それらの項目についての整備を望んでいる項目であると判定した。(これらの詳細については、当日述べることとする。)

4. おわりに

本研究は、京都中部地域の瑞穂町・丹波町・日吉町の3町を対象として、この地域の地域整備課題を特に居住環境に焦点を絞り明確化するための検討を行った。その結果、以下のようなことが明らかになった。

(1) 移動経歴ごとの居住環境評価の構造は基本的には同じと判断できた。しかし、その中でも転出者の交

通・衛生関連環境の評価の値は低く、この都市基盤整備の不足が転出を招き、また、故郷に対する不満感がUターン行動の抵抗になっているのではないかと推測される。

(2) 居住環境の満足度評価による整備方策としては、消費関連環境の整備を行うことが必要であると判断できた。

今後は就業環境を含めた生活環境全般の検討を含め、地域に関わる人々の望む整備の方向をより明らかにし、より具体的な農山村地域の整備のあり方について、その実現可能性も考慮しながら研究を進めていく必要があると考えている。